

今のわたしも、
未来のあなたも。

個人投資家向け 会社説明会

長瀬産業株式会社

証券コード:8012



本日はお忙しい中、長瀬産業の個人投資家向け説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

長瀬産業 経営管理本部の半羽と申します。

まず、事業内容について説明させていただいた後に、質疑応答として、皆さまのご質問に回答させていただきます。

ご質問は、説明中でもチャットにて受け付けておりますので、宜しくお願い致します。

長瀬産業は業態としては化学系商社という位置づけですが、いろいろな事業を展開しています。多少複雑な部分もありますが、ご興味を持って頂けるよう説明して参りたいと思います。

INDEX

1. 長瀬産業(NAGASE)について
2. 成長戦略
3. 株主還元など
4. まとめ

こちらが本日の説明内容となります。

まずは、NAGASEがどのような会社なのか。

次に中期経営計画**ACE 2.0**での成長戦略に向けた我々の取り組みをご紹介します、最後に株主還元についてご説明させていただきます。

INDEX

1. 長瀬産業(NAGASE)について
2. 成長戦略
3. 株主還元など
4. まとめ

まず、長瀬産業についてです。

誠実正道

【経営理念】

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

こちらが経営理念となります。

誠実正道とありますが、正式には、「社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める」というのが正式な経営理念になります。

この「誠実に正道を歩む」という理念が従業員の中に浸透していて、何か決断を迷った時は必ずこの言葉を思い出して判断する、というのが文化になっています。

▶ NAGASEの概要

創業	連結売上高	連結従業員数	格付(R&I)
1832年	9,449億円	7,484名	A+
業態	売上総利益 海外比率	拠点数	特許出願数
商社	54%	25 101社 カ国・地域	約1,500件
市場区分	自己資本比率	取引企業数	時価総額
プライム	49%	約18,000社 ※2024年度実績	約4,500億円 ※2026年2月12日時点

NAGASEの主な情報を一覧にしています。

創業が1832年と、およそ江戸時代後期になり、今年で194年という、比較的長い歴史を持った会社となります。

2024年度の実績になりますが、売上高は約9,400億円です。売上総利益の海外比率は54%と、半分以上が海外でのビジネスとなっています。

自己資本比率は約50%であり、財務的にも健全な会社と見ていただけたらと思います。

拠点数ですが、25の国と地域に、101社のグループを有しています。

連結の従業員数は約7,500名、取引企業数は1万8,000社、という規模です。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832~

1900~

1970~

2010~

化学品の専門商社としての地位確立

Story 1 染料の取り扱いから化学領域へ

NAGASEグループのグローバル展開

Story 2 海外有力メーカーとの取引を開始

製造・加工、研究開発機能の強化

Story 3 エポキシ樹脂の製造を開始 / Story 4 研究開発拠点の設立

食品素材ビジネスの本格化

Story 5 林原(現 ナガセヴィータ)・Prinovaのグループ化

では、200年近く続く会社ですので、簡単に歴史をご説明させていただきます。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832~

1900~

1970~

2010~

化学品の専門商社としての地位確立

Story 1 染料の取り扱いから化学領域へ

1832年、長瀬伝兵衛が紅花や布海苔、澱粉を扱う京都・西陣で「鱗型屋」を創業。のちに、天然染料だけでなく、合成染料の取り扱いを開始したことで、化学業界での基盤を確立した。



初代 長瀬伝兵衛



紅花

NAGASEグループのイメージソング「Safflowers」
<https://www.youtube.com/watch?v=X4wDZ92IIAM>

まず、創業ですが、1832年に京都の西陣での創業となります。

当時は天然の染料、紅花を扱っており、そこから化学品の領域へと取り扱い品を広げていきました。

右の写真が紅花になりますが、この紅花の赤がコーポレートカラーになっていて、この資料のベースの色にも使われています。

写真は黄色の花ですが、これが赤い染料になる過程をNAGASEのイメージソングを使って動画にしていますので、ご興味があればこのURLをご覧くださいと思います。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832~

1900~

1970~

2010~

NAGASEグループのグローバル展開

Story 2 海外有力メーカーとの取引を開始

輸入を通じて海外の製造技術を国内に持ち込む

チバ社	: 化学	機能素材
デュポン社	: 塗料	機能素材
チバ社	: エポキシ樹脂	電子・エネルギー
イーストマン・コダック社	: 映画用フィルム ※	電子・エネルギー
※後にフィルム現像技術を半導体に応用		加工材料
ゼネラルエレクトリック社(GE社)	: 樹脂	モビリティ

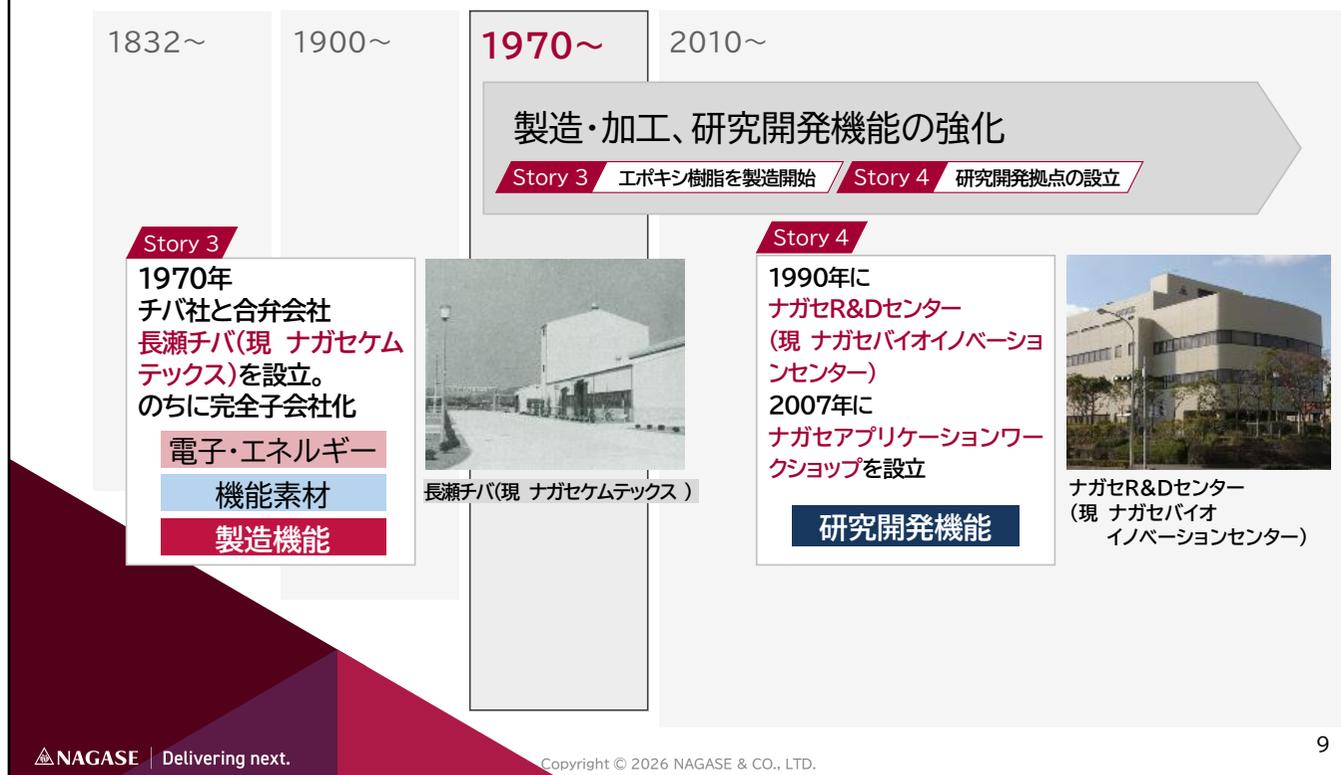
1900年ごろにチバ社との取引を開始し、海外展開が進んだことです。

1900年前後ですから海外に行くのも非常に大変だったかと想像しますが、当時は化学といえばヨーロッパ、アメリカなど海外中心であり、海を渡り、サプライヤーの発掘を進めていった時代です。NAGASEは海外展開がわりと早くて、京都での創業後、大阪に本店を移管したのですが、その次の拠点は東京でもなく、スイスが2番目だったという歴史があります。

そのおかげもありまして、ここにありますように、チバ社、デュポン社、イーストマン・コダック社、GE社などの海外の大手のメーカーとのパートナーシップを築けたことで、事業を拡大させることが出来ました。

右にありますように、このころの取り組みが、今のセグメントの基礎になっています。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史



次は、1970年ごろになりますが、お客様の課題を解決する手段を広げるため、製造機能の強化を進めました。

当時は海外メーカーと合併会社を設立するなどしてノウハウの獲得を進めてきました。

現在、半導体の封止材や半導体材料の薬液などを製造しているナガセケムテックスも、このころの合併会社が源流となっています。半導体などの封止材に使用されるエポキシ樹脂は、当時から製造を行っています。

その後、研究開発にも力を入れるべく、1990年頃に研究開発拠点であるナガセR&Dセンターを設立しています。現在はバイオに特化したナガセバイオイノベーションセンターとして研究開発を続けています。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832~

1900~

1970~

2010~

食品素材ビジネスの本格化

Story 5 林原(現 ナガセヴィータ)・Prinovaのグループ化

2012年に林原(現 ナガセヴィータ)、
2019年には米国のPrinovaグループを買収し、
食品素材ビジネスを本格化

生活関連



林原(現 ナガセヴィータ)



Prinovaグループ

最後5つ目です。今までの説明のとおり製造機能や研究開発機能の拡充により、事業は拡大していきましたが、2000年頃までは利益の8割くらいが電機・電子業界、自動車業界から来ており、市場の影響を受けやすいポートフォリオとなっていました。

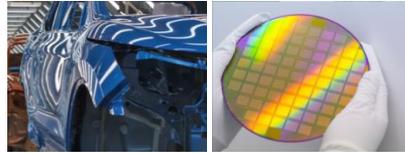
そのため、2010年頃から食品素材や化粧品など生活に関わる分野の強化を進めました。

2012年には食品・化粧品素材などを扱うバイオ企業・林原、現在のナガセヴィータをグループ化し、2019年には食品素材販売や受託加工ビジネスを行う、米国のPrinovaをグループ化することで、食品素材ビジネスを拡大させてきました。

▶ 5つの事業セグメント

自動車、電子機器、土木・建設、化粧品や食品関連など様々な業界に対し、川上から川下まで幅広く事業を展開

機能素材



加工材料



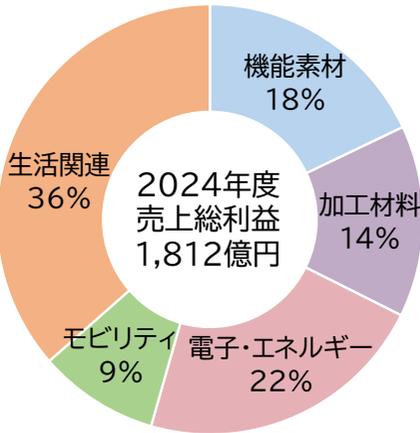
電子・エネルギー



モビリティ



生活関連



※ セグメント別構成比の計算には、
その他・全社、連結調整を含まず

現在のNAGASEの事業セグメントになります。

各セグメントは次のページから簡単にご紹介しますが、まず左のドーナツグラフを見て頂くと、

2024年度の売上総利益で1,812億円となっていますが、先ほどの説明のとおり、生活関連セグメントは後発ですが、割合としては一番大きくなっています。ただ各セグメントも大きな偏りはなく、バランスよく利益を出していることが見ていただけると思います。

機能素材セグメント

- 化成品事業を基盤として高機能素材を提供
- 塗料・インキ、ウレタン、半導体などの業界向けに事業を展開

強み

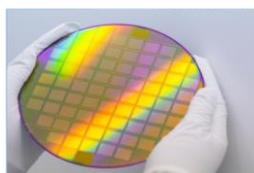
- 長年維持してきた圧倒的シェアに裏付けられるサプライチェーンマネジメント機能
- 長年培った取引先との強固な信頼関係と業界・化学品への深い知見
- グローバルネットワークや課題解決力、専門性

身の回りの製品例

- 自動車や建築用の塗料原料
- 半導体の材料
- 建築用の断熱材原料
- 自動車のシートのウレタン原料
- おむつの原料



塗料・インキ用添加剤



半導体材料



ウレタン原料



SAP(高吸水性ポリマー)原料

では、ここでセグメントの紹介ですが、まずご紹介するのが、機能素材セグメントになります。

このセグメントは、塗料・インキ、ウレタン、半導体などの業界向けに事業を展開しています。

これらは、皆さまの身の回りにある自動車や建築用の塗料原料や、半導体の材料、自動車のウレタンシート、おむつの原料、などに使用されているものを扱っています。

加工材料セグメント

- OA機器や電機・電子業界を中心に幅広い業界に合成樹脂を販売
- ナガセアプリケーションワークショップとの連携で付加価値を拡大

強み

- 技術的知見・情報やノウハウ
- サプライチェーンネットワーク
- アジアパシフィックでの充実したサプライヤーおよび顧客基盤

身の回りの製品例

- OA、PCなどに使用される樹脂
- 化粧品容器やカップの樹脂
- 工業用ホース、土木用パイプなど



樹脂ペレット



プリンターの筐体



樹脂製のカップ



工業・土木用パイプ

加工材料セグメントでは、左端の写真のような樹脂ペレットを販売しています。主な販売先としてプリンタの筐体向けなどOA機器や電機・電子業界となりますが、樹脂製のグラスなどにも使われていて、サイゼリアのグラスは、トライタンというNAGASEの取り扱っている樹脂が使われています。

ほかには土木用パイプや工業用ホースを製造・販売しているナガセルータックというグループ会社もあります。

このように、皆さまの身の回りにあるOA機器や、プラスチック製品、また、電気・ガスといったインフラを保護するパイプや排水管などにも、NAGASEの樹脂を使った製品が使用されています。

電子・エネルギーセグメント

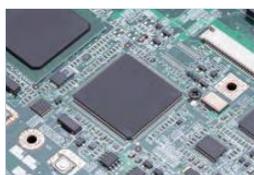
- 半導体や電子デバイスなどの業界の潜在的なニーズを先取りし、グループの製造機能を活用し、オリジナリティの高い製品を提供

強み

- 商社機能とメーカー機能が融合した製販一体体制
- メーカーとしての技術力・開発力を背景としたソリューション提供
- 顧客ニーズを的確に反映した商材探索・提案

身の回りの製品例

- PC、スマホ、タブレットなどの液晶材料
- PC、スマホ、タブレットなどの電子部品材料
- 半導体に使われる材料



変性エポキシ樹脂



半導体材料



ディスプレイ材料

電子エネルギーセグメントになります。

ここでは、グループ会社のナガセケムテックスが製造する変性エポキシ樹脂の他、半導体や電子デバイスに使用される材料や、ディスプレイ用部材などを扱っています。

皆さまの身の回りでは、電化製品に使われる半導体の材料や、パソコン、スマホ、タブレットなどの液晶、電子部品の材料に使われています。

モビリティセグメント

- 自動車の内外装の樹脂や、EV、ハイブリッド車用などのカーエレクトロニクスに関わる商品を扱う
- 自動運転社会の到来を見据えセンサー・電子デバイスへの事業展開を図る

強み

- 幅広い商品群
- 製品・技術の発掘力とグローバルサプライチェーン構築力
- 取引先との強固な信頼関係

身の回りの製品例

- 自動車の内外装などに使われる樹脂
- 車内エレクトロニクス用の製品
- 自動運転用のセンサー部品
- 電動化用の製品
- 車載ディスプレイ関連部材
- リチウムイオン電池材料 など



自動車内装



自動車外装



カーエレクトロニクス
関連部材

モビリティセグメントでは、
下の写真にあるような自動車向け内外装につかう高機能樹脂や、最近は電動化が進んでいますのでカーエレクトロニクス関連部材などを扱っており、ガソリン車から、EV、ハイブリッド車や自動運転用の製品に使用される幅広い商品群を有しています。

生活関連セグメント

- 食品素材、化粧品素材、医薬品原料など景気変動を比較的受けにくい事業を行う
- ナガセヴィータとPrinovaグループを軸にフード事業の拡大を図る

強み

- 業界トップクラスの顧客基盤とグローバルな事業基盤
- グループ内の商社機能、製造機能、研究開発機能を活かす総合力
- 高度な専門知識を有する人材

身の回りの製品例

- 食品に含まれる糖質
- 化粧品の原料
- ビタミン、アミノ酸、甘味料などの食品添加物
- プロテインなどのスポーツニュートリション
- 医薬品原料など



食品素材



化粧品素材



スポーツ
ニュートリション



中間体・医薬品原料

最後は生活関連セグメントですが、景気に左右されにくい特徴をもった事業を展開しています。

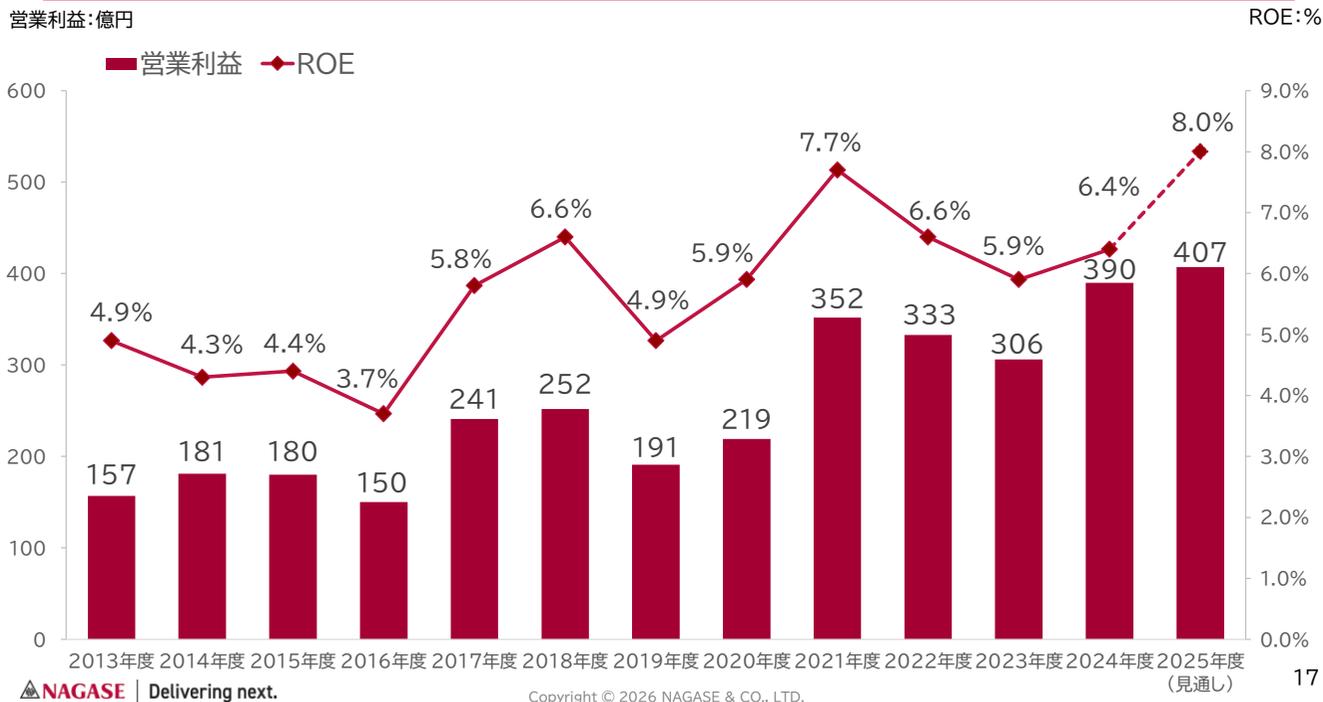
食品素材関連では、ナガセヴィータのトレハロースと呼ばれる自然由来の糖質を製造販売しているほか、Prinovaグループでは2,000品目以上の食品素材を取り扱っています。

また、化粧品素材として使用される特徴のある安定型ビタミンCなどの製造販売なども行っています。

このセグメントでの中心はナガセヴィータとPrinovaになりますが、この2社については、後程少し詳しく説明いたします。

▶ 業績の推移と見通し

- 2024年度は過去最高益を更新
- 2025年度も増益見込みであり、ROE8.0%以上を目指す



こちらは営業利益とROEの推移になります。

多少年度によって浮き沈みがありますが、順調に右肩上がりに伸びているのを見て頂けるかと思えます。

現在の中期経営計画では、最終年度であるこの進行年度ですが、営業利益350億円の常態化、ROE8%以上を定量目標として掲げております。この水準は昨年度2024年度には390億円と過去最高益を更新しており、今年2025年度も最高益を更新し、ROE8%以上も達成する見通しです。

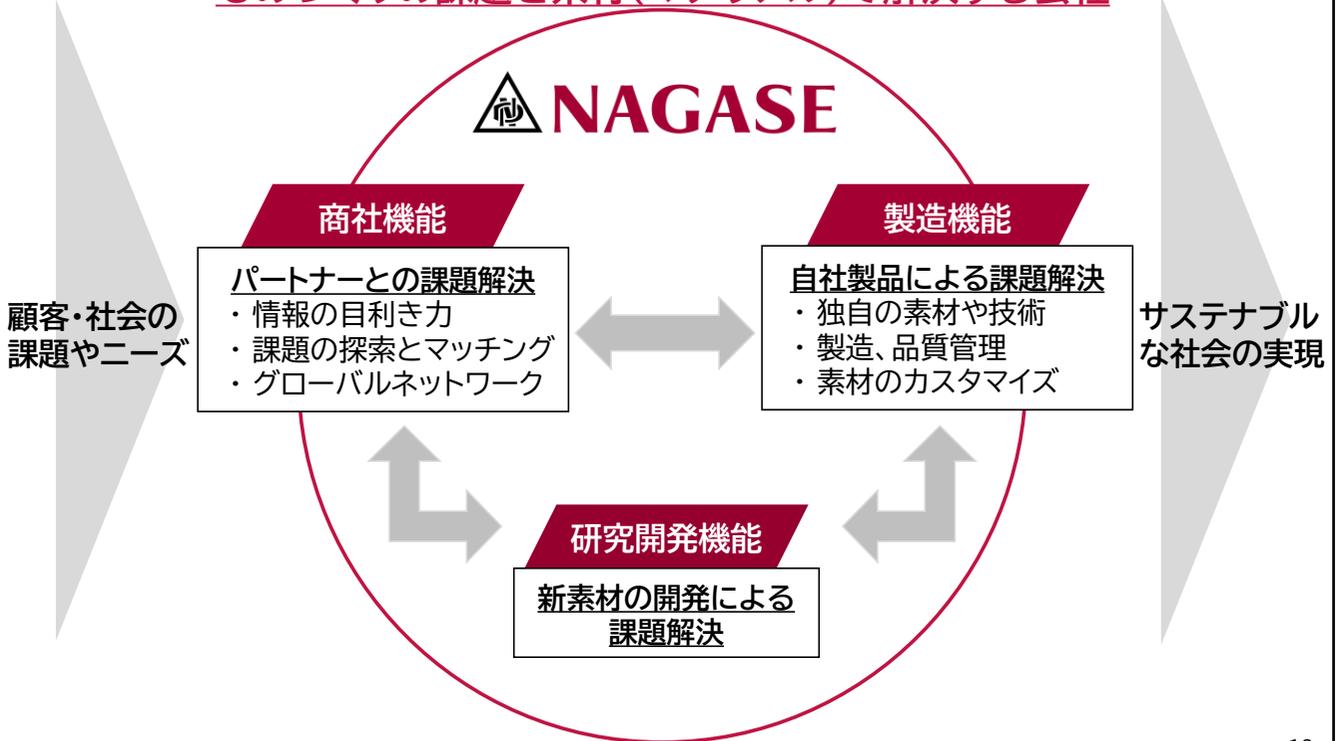
INDEX

1. 長瀬産業(NAGASE)について
2. 成長戦略
3. 株主還元など
4. まとめ

ここから、目標を達成するための成長戦略についてお話いたします。

▶ NAGASEグループのユニークな機能

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社



こちらの図はNAGASEの機能を表しています。

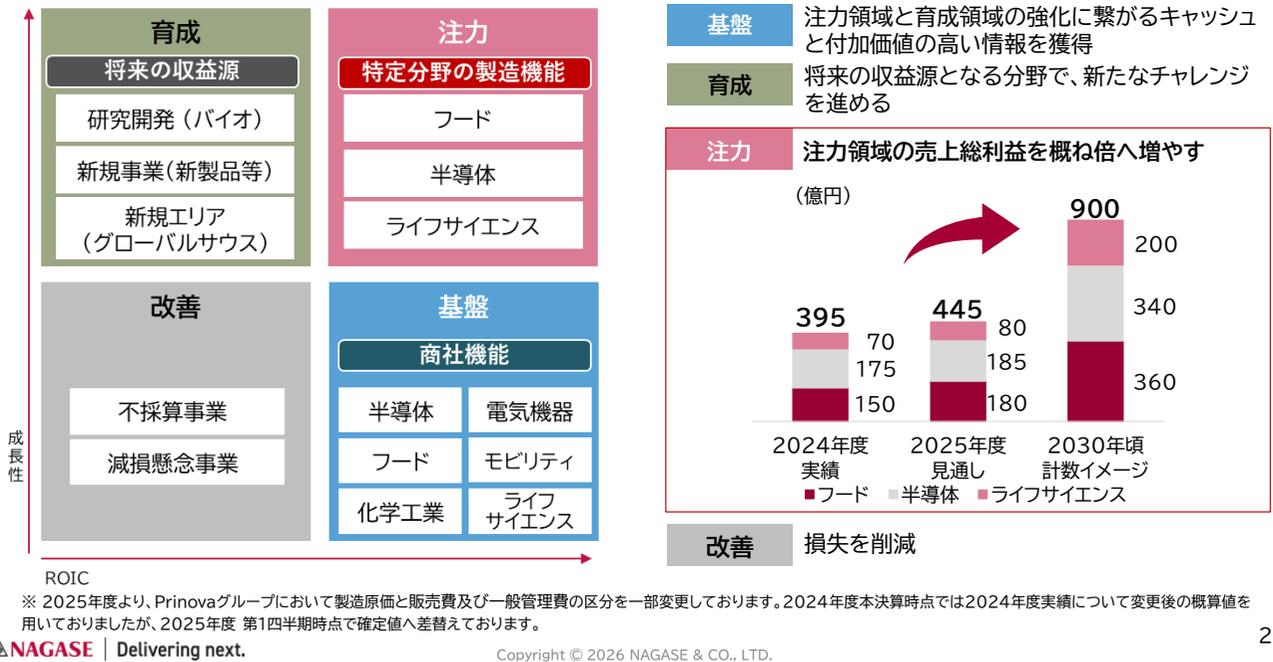
歴史のところで少しお話しましたが、NAGASEは商社としての機能に加えて、製造機能、研究開発機能という3つの機能をもっています。

商社機能は広いネットワークを活用し、お客様そして社会の課題やニーズといった情報を獲得する力があります。

この商社業の目利き力を活かして、さらに製造・研究開発機能を活用することで、お客様や社会にユニークな製品を提供できる点が、NAGASEの強みと言えます。

▶ 将来に向けた成長戦略

- 基盤事業である商社機能から生み出された経営資源や情報を注力・育成領域で活用する
- 注力・育成領域に対する潜在的な投資額は約800億円
- 中長期的な利益規模・利益率の向上を狙う



これらの機能をもとにした成長戦略ですが、左の図は縦軸に成長性、横軸に効率性の2軸、4象限で戦略を表したものになります。

1つ目の基盤領域は、NAGASEのベースになる商社機能を示しています。商社ビジネスでは、より多くのキャッシュを生み出すとともに、付加価値の高い情報を集め、それらのキャッシュや情報を育成や注力に提供し、成長させていきます。

注力領域では、自社製品や技術を磨き、収益性を向上させていくことができる製造機能を分類しています。特に成長性が見込めるフード、半導体、ライフサイエンス分野にリソースを集中的に投入していきます。右のグラフにあるように、2025年度の売上総利益は445億円を見込んでいますが、2030年頃には倍の900億円まで押し上げる計画をしています。

育成領域では、基盤で得た情報をもとに、バイオを中心とした研究開発や、新規事業の立ち上げ、新規エリアである、インド、メキシコ、ブラジルなどのグローバルサウスでの事業展開など、将来の収益源となるプロジェクトのチャレンジを進めていきます。

この注力と育成領域に対する潜在的な投資額は約800億円となります。

最後に改善領域です。不採算の事業や取引、減損懸念資産に対して徹底的に見直しを行い、可能な限りゼロを目指して取り組んでいます。

▶ 注力領域について

注力領域	主な製造機能	ビジネスの機会
特定分野の製造機能		
フード	  ナガセヴィータ株式会社	健康志向の高まり フードロスに対する課題意識
半導体	 ナガセケムテックス株式会社	AI用最先端半導体の需要増 環境意識の高まり
ライフサイエンス	 ナガセヴィータ株式会社  ナガセダイアグノスティックス株式会社	高齢化社会/健康志向の高まり

ここから注力領域の各分野での取り組みを説明させていただきます。

各分野ごとの、ビジネスの機会に向けて、製造機能を軸に事業を展開していきます。

▶ 注力領域について

注力領域	主な製造機能	ビジネスの機会
特定分野の製造機能		
フード	  ナガセヴィータ株式会社	健康志向の高まり フードロスに対する課題意識
半導体	 ナガセケムテックス株式会社	AI用最先端半導体の需要増 環境意識の高まり
ライフサイエンス	 ナガセヴィータ株式会社  ナガセダイアグノスティックス株式会社	高齢化社会/健康志向の高まり

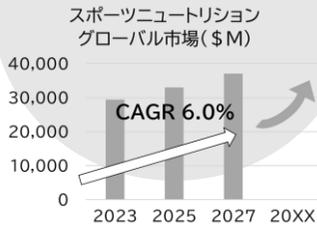
まず、フード分野の注力領域では、健康志向の高まりや、フードロスに対する課題意識をビジネスの機会と捉えています。

この課題について、Prinovaとナガセヴィータの製造機能を活用して、解決していきます。

注力 フード分野の製造機能

【社会課題】

- ・世界的な健康志向の高まり
- ・フードロスに対する課題意識



引用元: © Statista 2023のデータをもとに当社作成

収益性の高い製造加工ビジネスを拡大する

健康寿命の延伸
フードロスの低減

- ・ 拡大する**スポーツニュートリション市場**に対して米国Prinovaの製造機能を活用してビジネスを展開
- ・ 健康志向の消費者など**新たなカテゴリー**の開拓にも取り込む
- ・ 食品素材における**独自の調達力**を活かし、北米、欧州に続き**南米、アジアへの事業拡大**を進める
- ・ ナガセヴィータが製造する**自然由来の多機能糖質トレハロース**のビジネス拡大



- ・ 成長性の高い**スポーツニュートリション市場**との接点
- ・ **グローバルをカバーする販売網**
- ・ **M&Aの経験とノウハウ**
- ・ **ワンストップで調達から製造まで提供**できるビジネスモデル

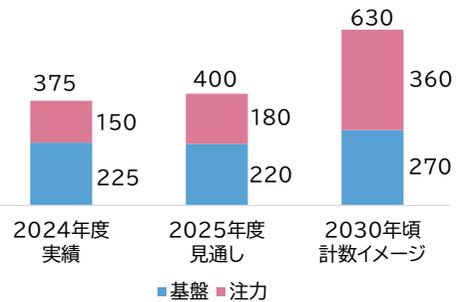


ナガセヴィータ株式会社



- ・ 食品素材、パーソナルケア素材、医薬品素材など**バイオテクノロジー**をベースに幅広い事業を展開
- ・ 自社製造の**機能性食品素材**を含む多様な**素材ラインナップ**
(自社素材: **トレハ®**、**ファイバリクサ®**、**ヘスペリジン**等)

フード分野の売上総利益 (億円)



健康志向の高まりについては、成長性の高いスポーツニュートリション市場に対して、製造機能である米国Prinovaを中心とした受託製造ビジネスを展開していきます。

既存の用途だけではなく、アレルギー対応品や美容を意識したものなど新規のカテゴリーの開拓も進めていきます。

フードロスに対する課題意識については、ナガセヴィータの製造する自然由来の多機能糖質トレハロースを活用した事業で課題の解決に取り組んでいきます。

基盤も合わせた売上総利益の見通しは、2025年度の400億円から、2030年ごろには630億円まで拡大させます。

▶ スポーツニュートリション市場の動向

米国ではマーケットが細分化され、利用ユーザー層も拡大

ユーザー層



プロフェッショナル/ボディビルダー・スポーツ選手等
(競技人口:少 × 摂取頻度・量:大)



一般生活者/スポーツ愛好家・ウィークエンドアスリート
(競技人口:中~大 × 摂取頻度・量:中~大)

製品イメージ



Pea Protein
大豆アレルギー
対応品



Beauty
健康維持
美容と健康



GREENS
ビタミン等の
栄養素

ここで少し、スポーツニュートリションについて、説明いたします。

スポーツニュートリションは、スポーツをする人向けに開発された栄養補助食品であり、日本ではプロテインが馴染みがあると思います。

プロテインというと、左上の写真のようなボディビルダーやスポーツ選手向けのものでしたが、健康維持などを目的として、一般生活者にまでユーザーの裾野が広がっており、今後も成長する市場であると見込んでいます。

ユーザー層の拡大に伴い、摂取の目的も多様化していますので、右下にあるようなアレルギー対応品や健康をサポートするものなどの付加価値のある製品を提供していきます。

▶ フード分野における投資

ブラジルにおけるフード事業拡大に向け Aplinova 社を買収 ～グローバルサウスにおける顧客チャネル基盤の拡大へ～



Aplinovalについて

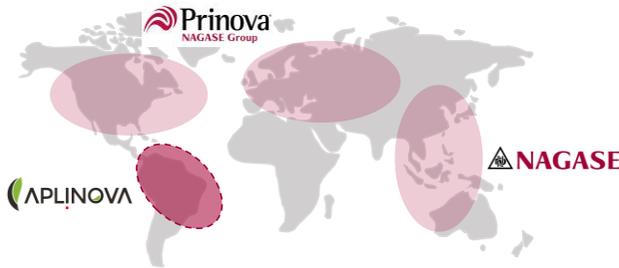
所在地：ブラジル・サンパウロ
事業内容：プレミックス、フレーバー、着色料、粉末油脂等の食品向け素材・加工品の販売・受託製造
拠点：本社、工場、物流センター
従業員数：79名



スキーム

Prinovaによる全株式取得

Prinova顧客の南米展開を
Aplinovalを通じてサポート



買収の目的

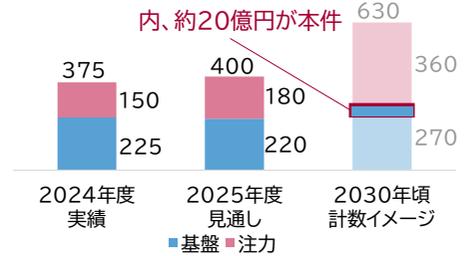
- ✓ グローバル展開の一環として、南米市場を強化
- ✓ Aplinova社の顧客基盤1,000社超で顧客チャネルを拡大
- ✓ Prinovaグループのアミノ酸・ビタミンなどの販路を拡張



規模

- ✓ 2030年度の売上総利益約20億円を目指す

NAGASE: フード分野の売上総利益 (億円)



※ 2025年度より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。2024年度実績も含め当該変更による組替え反映後の概算値となります。

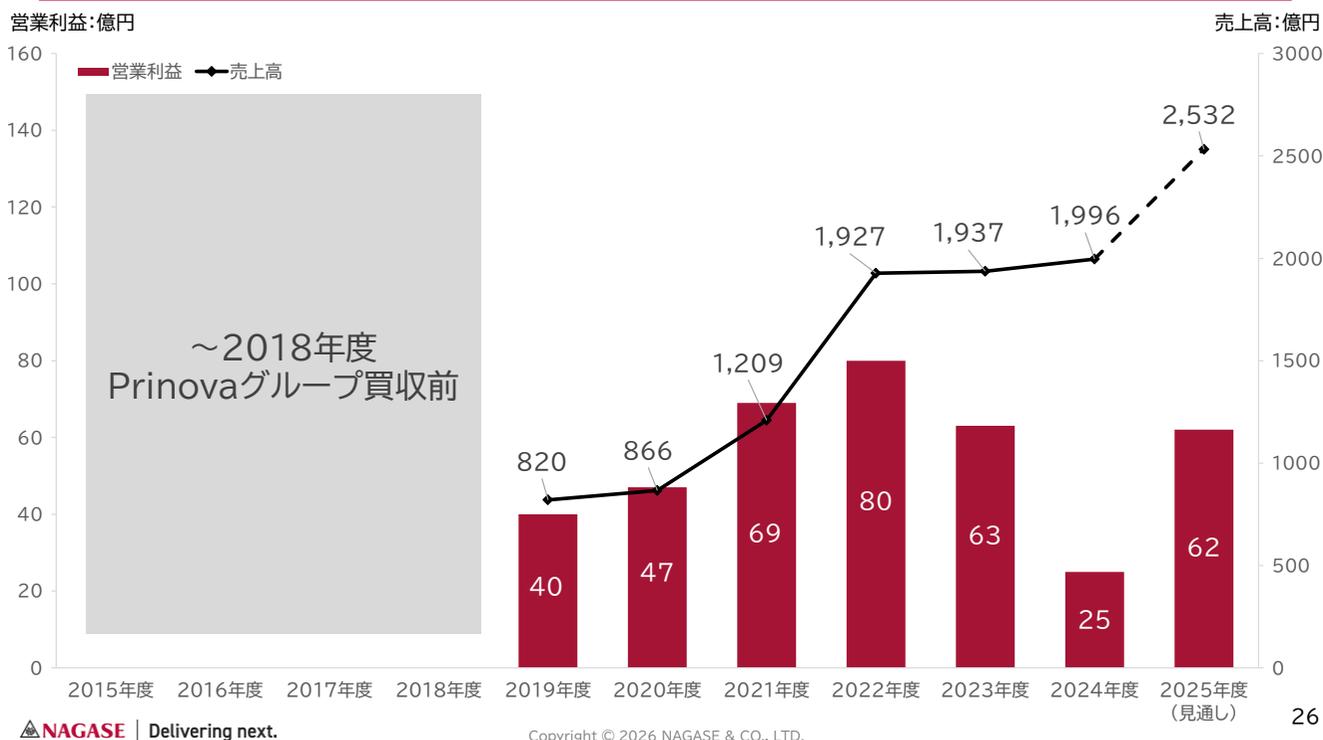
では次にフード分野における、M&Aを活用した成長をご紹介します。

この2025年度にブラジルで食品向け素材・加工品の販売・受託製造を行うAplinova社をグループ化しました。

グループ化により獲得したAplinova社の約1,000社を超える顧客チャネルを通じて、Prinovaの食品素材をはじめとしたビジネスの販路を拡大し、南米市場の事業を強化していきます。

▶Prinovaグループの業績推移と見通し

2019年度の買収以降、売上高は倍以上へ成長
営業利益はNutrition事業が足元苦戦しており減益傾向も、2025年度は回復見通し



こちらはPrinovaグループの業績推移ですが、
さきほどご紹介したApplino社へのM&Aのほかにも、
2019年度の買収以降、M&Aを含む投資を行いながら、事業を拡大してきました。

2024年度までに2019年度の買収当時から、売上高は倍以上へ成長しており、
2025年度は3倍以上に成長する見通しを立てております。

営業利益につきましては、2024年度は新工場建設によるコストや、人件費等の一般管理費の増加により、苦戦しておりましたが、効率化の推進による原価低減が進んでおり、2025年度は回復の見通しです。

▶ ナガセヴィータのフード分野の事業 Nagase Viita

ナガセヴィータ株式会社

- 長年培った**酵素利用技術とバイオテクノロジー**を活用した**自然由来の食品素材**により、**食のサステナビリティ**を推進する

特に強みをもつ製品

- **トレハロース**:キノコ類や酵母に含まれる天然の糖



食品に加えることで、品質を安定させるなどの効果を与える多機能糖質
和菓子や冷凍食品などに使用されている

ナガセヴィータが世界初のトレハロースの大量生産技術を開発

トレハロースの主な機能

でん粉老化抑制



不使用 トレハ®使用
(生米に対して10%)

野菜などの
変色の抑制



無処理 トレハ®10%
水溶液処理

たんぱく質
変成抑制



不使用 トレハ®使用
(卵重量の3%)

結晶性



不使用 トレハ®使用

ナガセヴィータのフード分野について説明します。

ナガセヴィータは、1883年の創業以来、酵素・発酵技術を蓄積しており、トレハロースという自然由来の糖質の、世界初の量産化を実現するなど、開発力の実績のある企業です。

このトレハロースは、食品を長持ちさせたり、固くなるのを抑えたり、変色を防ぐなどの効果や、卵のフワフワ感を残したり、ドーナツのグレーズが時間が経ってもベタベタさせずパリパリ感を維持する効果があり、和菓子や洋菓子、冷凍食品などに使われています。

その食品を長持ちさせる性質はフードロスの削減に効果があるため、サステナブルな事業として推進しています。

▶ 注力領域について

注力領域	主な製造機能	ビジネスの機会
特定分野の製造機能		
フード	  ナガセヴィータ株式会社	健康志向の高まり フードロスに対する課題意識
半導体	 ナガセケムテックス株式会社	AI用最先端半導体の需要増 環境意識の高まり
ライフサイエンス	 ナガセヴィータ株式会社  ナガセダイアグノスティックス株式会社	高齢化社会/健康志向の高まり

次に半導体分野についてです。

注力 半導体分野の製造機能

【社会課題】

- ・AI用最先端半導体の需要増
- ・環境意識の高まり



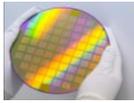
引用元:富士経済のデータをもとに当社作成

生成AIサービスの普及で急成長している最先端半導体市場において高付加価値製品の販売をさらに拡大

最先端半導体の製造に欠かせない高付加価値な素材を提供

- ・ AIなど最先端半導体用の封止材で、業界標準の地位を確立
- ・ 国内初となる半導体製造工程で使用された現像液を回収・再生するシステムを推進、拡大
- ・ Rapidus株式会社の取りまとめ業者などで商権をさらに拡充、海外展開にも活用
- ・ 化学品取扱(運送・保管、輸出入)のノウハウ、サプライチェーンマネジメントの強化

Nagase ChemteX
ナガセケムテックス株式会社



- ・ エレクトロニクスやケミカルなどの領域で独自の技術を持つ製造会社
- ・ 長年にわたり独自の合成技術・配合技術・評価技術を蓄積
- ・ 半導体の封止材等に用いられる変性エポキシ樹脂等の高機能樹脂
- ・ 半導体や液晶製造の微細加工などで使用されるプロセスケミカルの薬液

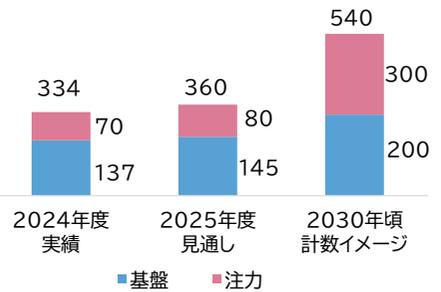
NAGASE | Delivering next.

SN Tech
(旧) SACHEM グループ

- ・ 現像液の回収・再生事業



半導体分野の売上総利益 (億円)



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

29

半導体は今の生活に欠かせないものの1つになっており、今後も半導体市場は大きな成長を見込んでいます。特にAI用の半導体は2ケタ成長が予想されています。

それを受けて、ナガセケムテックスが製造するAIサーバー用半導体向けの液状封止材が業界標準の地位を確立しています。封止材は、AIサーバー用半導体の需要増加に伴い、引き続き好調に成長していくと期待しています。さらに、次世代の半導体においてもデファクトスタンダードの地位を確立すべく新製品の開発も進めています。

また、半導体業界においても環境意識が高まっておりますので、新たなビジネスとして、国内初となる半導体の製造工程で使用された現像液を回収・再生するシステムを推進しています。

▶ 半導体分野の強み

- ・当社主催のセミナーを開催
社外より140名が参加し、
最新動向の共有と人脈を形成
- ・国内、海外の研究機関と連携



Rapidus(株)の材料輸送のとりまとめなどにより
最新の業界動向を把握
海外への輸出拡大、海外品の輸入販売

▲ Nagase ChemteX
ナガセケムテックスの液状封止材
は先端半導体用途での業界標準
これに続く次の業界標準の創出へ

300社以上の半導体関連メーカー
との取引実績

半導体薬液リサイクルシステムを
業界大手のお客様へ販売
TMAH※の安定供給と
環境負荷低減を実現

戦略地域の拡大

日本・台湾・米国・欧州
・韓国・中国・インド(近い将来)

※TMAHは全デバイスに使用される
材料で、「環境×材料」での重要な原料



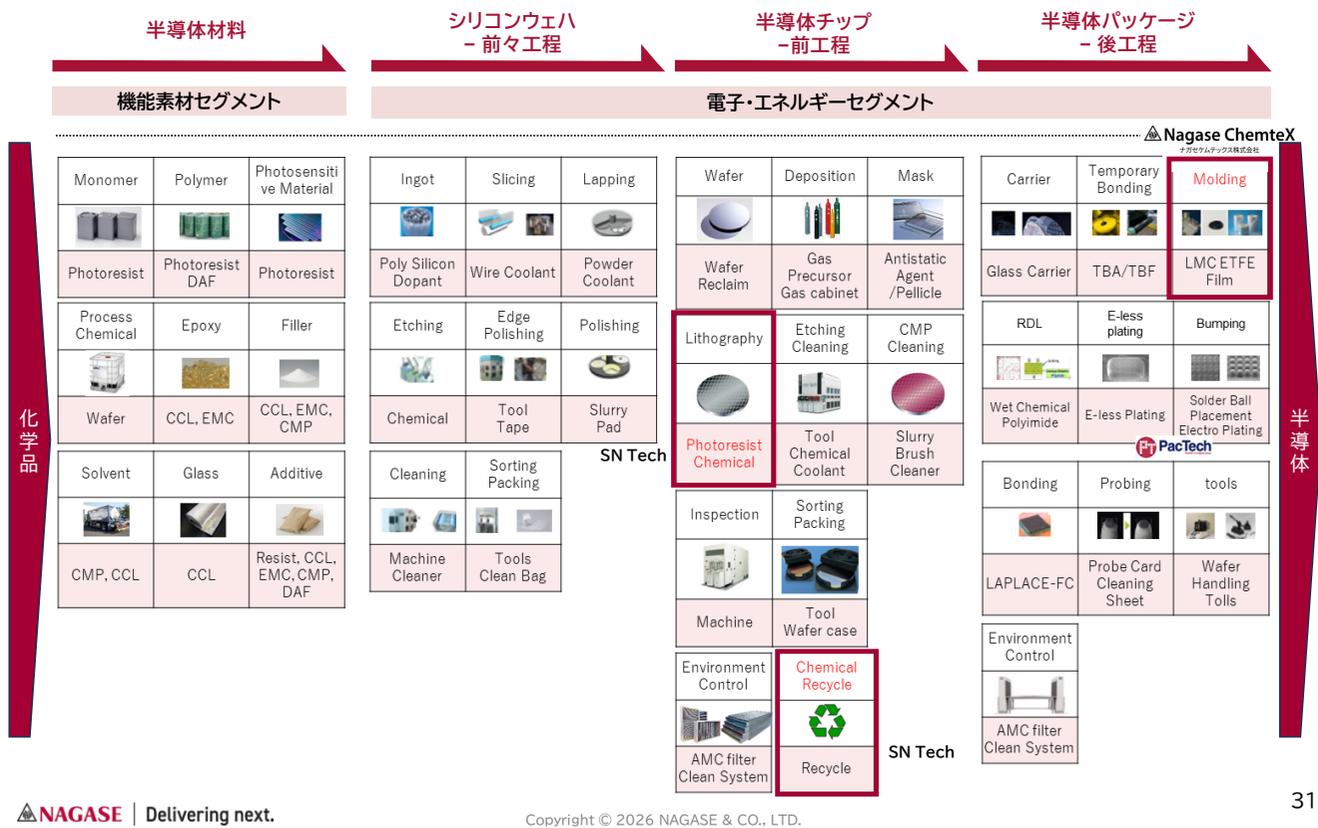
NAGASEの半導体分野における強みをご説明します。

当社はRapidus社の材料輸送の取りまとめ業者に指定されていることに加え、300社以上の半導体関連メーカーとの取引実績があるため、最新の業界動向を把握することができるポジションにあります。

また当社の半導体との関係は1960年代に米国コダック社の半導体材料(リソグラフィ材料)を販売したことから始まり、1974年に米国コダック社の半導体セミナーで得た知識を国内の半導体関連企業に共有するセミナーを実施しました。そのセミナーは現在まで断続的に開催しています。現在も社外より140名が参加し、人脈を形成しています。

加えて、製造機能であるナガセケムテックスは先端半導体の封止材において業界標準の地位を獲得しています。また、材料だけでなく、半導体薬液リサイクルシステムの販売も行うなど、多様なビジネスを展開しています。

▶ 半導体業界でのバリューチェーン



資料で示しているのは、NAGASEが半導体の製造工程で関わりのある製品です。

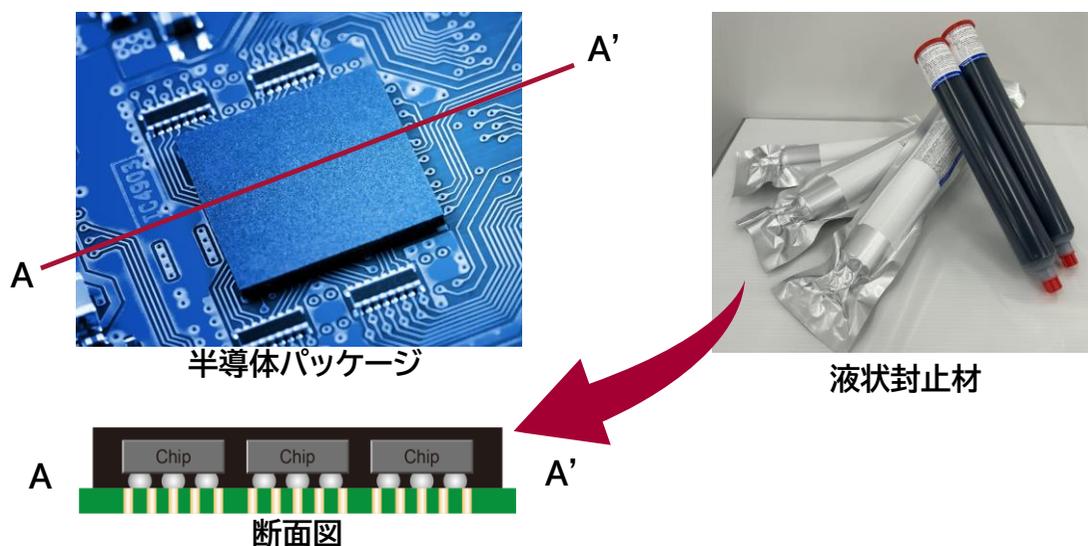
NAGASEは、半導体材料から前々工程、後工程まで、すべての工程にビジネスに関わっており、各工程の最新の動向・情報を取得できるポジションにいます。

このように得た情報をもとに、ナガセケムテックスの製造・開発機能を活用し、未だ世にない製品を自社で開発し、最大手のお客様での実績化、更には業界標準化を狙っていきます。

次に、注力しているナガセケムテックスが製造する封止材についてご説明します。

▶ 半導体の封止材におけるNAGASEの強み

AI用の最先端半導体向けの液状封止材で圧倒的なシェアを誇る



半導体チップは熱、衝撃、湿気等に弱く保護するための対策が必要となります。そのため、半導体の製造工程には、密着性や耐水性、絶縁性などに優れた封止材で半導体チップを覆う工程があります。

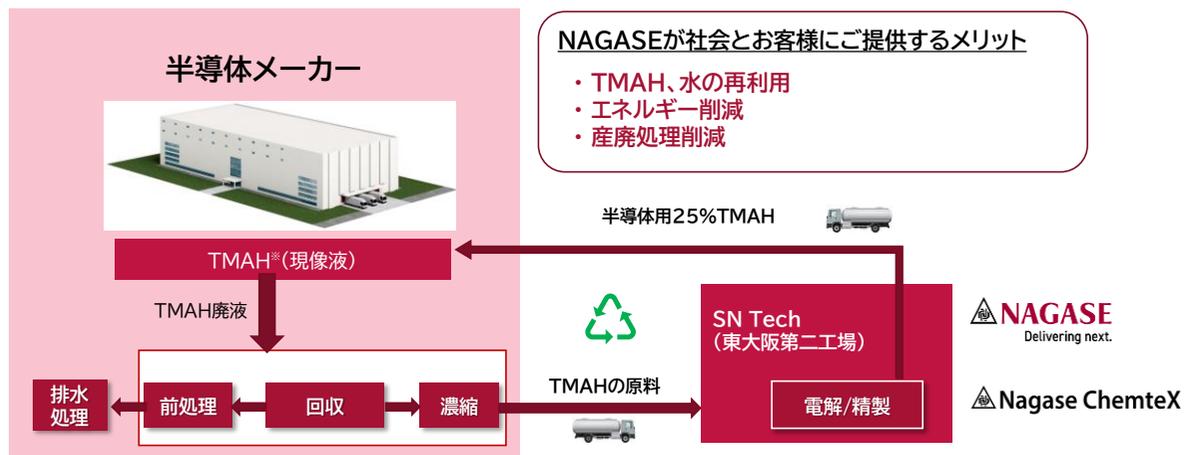
断面図の黒い部分が封止材になります。封止材は、図のようにチップの間を隙間なく埋める性能が求められます。今後、半導体パッケージングがますます多様化・複雑化する中で、封止材に求められる性能はより高いものとなっています。

半導体チップの多層化や巨大化に対応するための次世代製品の提案も進めており、次世代の半導体分野でも業界標準を目指します。

▶半導体製造プロセスにおける現像液の回収・再生事業

国内初 半導体製造に使用される現像液の回収・再生を事業化

今後生産量が増加していく半導体業界に対して、製造プロセスによる環境負荷低減へのソリューションを提供



※ 半導体やフラットパネルディスプレイの製造工程で使用される現像液
テトラメチルアンモニウムヒドロキシド

封止材に加えて、半導体分野の注力領域として取り組んでいるのが、半導体製造プロセスにおける現像液の回収・再生事業です。

製造プロセスに使用された現像液は廃棄されるため、半導体業界において環境負荷や収益面での課題とされてきました。

本事業では、高度な電解・精製技術で現像液を回収・再生し、再び半導体メーカー向けに販売します。

本事業により半導体製造における現像液や水の再利用と、産業廃棄物の処理費用の大幅削減を実現します。

これは国内で初めての試みであり、国内での実績化を進め、半導体メーカーに対してグローバル展開を目指します。

▶ 注力領域について

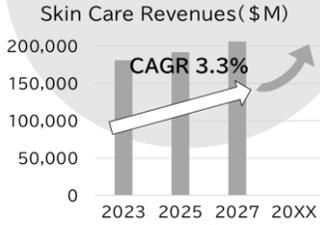
注力領域	主な製造機能	ビジネスの機会
特定分野の製造機能		
フード	  ナガセヴィータ株式会社	健康志向の高まり フードロスに対する課題意識
半導体	 ナガセケムテックス株式会社	AI用最先端半導体の需要増 環境意識の高まり
ライフサイエンス	 ナガセヴィータ株式会社  ナガセダイアグノスティックス株式会社	高齢化社会/健康志向の高まり

続いてライフサイエンスの取り組みです。

注力 ライフサイエンス分野の製造機能

【社会課題】

- ・高齢化社会・健康志向の高まり
- ・サステナビリティへの意識の高まり



引用元: © Statista 2023のデータをもとに当社作成

サステナビリティへの意識が加速する
ライフサイエンス市場において市場トレンド・
顧客ニーズに合った自社素材を提供していく

安心安全なバイオ
由来素材の提供

- ・ナガセヴィータの素材・技術で医薬品、化粧品領域での事業を拡大
(AA2G®、プルラン、トレハロースSGなど)
- ・ナガセダイアグノスティックスの診断薬・診断薬酵素の海外への拡販推進
- ・ナガセダイアグノスティックスとナガセヴィータの酵素ライブラリの掛け合わせによる新製品の開発

Nagase Viita

ナガセヴィータ株式会社



- ・酵素利用技術とバイオテクノロジーを活用した安心安全なバイオ由来素材を提供
- ・食品素材の医薬品素材への用途展開を推進

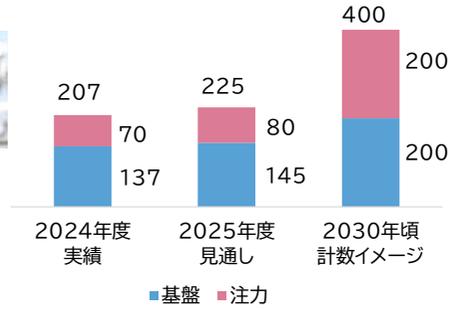
Nagase Diagnostics

ナガセダイアグノスティックス株式会社



- ・成長市場の診断薬分野での製品ラインナップ拡充
- ・NAGASEグループのネットワークと統合し販売拡大
- ・高感度な酵素技術×NAGASEの研究開発力で新製品開発

ライフサイエンス分野の売上総利益(億円)



ライフサイエンス分野では、高齢化社会や健康志向の高まりに対して、ナガセヴィータの酵素・発酵技術を活用した医薬品、化粧品を拡大させます。

また、2025年にグループジョインしたナガセダイアグノスティックスの事業の拡大をさせていきます。

まずは、ナガセヴィータのライフサイエンス分野について説明します。

▶ ナガセヴィータのライフサイエンス分野の事業

- 酵素利用技術とバイオテクノロジーを活用した安心安全なバイオ由来素材を提供
- 食品素材の医薬品素材への用途展開を推進

特に強みをもつ製品

● AA2G®



自然由来の安定型ビタミンCで、ビタミンCと酵素、でん粉が原料
国内外で、スキンケア化粧品に配合されている

● トレハロースSG



医薬品添加剤用のトレハロース
需要が高まる抗体医薬品の品質安定性向上に貢献

● プルラン



微生物が作り出す多糖
フィルム形成性を有するため医薬品カプセル市場に展開

ナガセヴィータの主力商品のひとつであるAA2G®は、ビタミンCと酵素、でん粉が原料である安定型ビタミンCです。安定的な構造をもっているため、化粧品に配合しても安定し、着色しにくい特徴があります。こちらは、国内外の高級化粧品などに配合されています。

また先ほど食品素材として紹介したトレハロースを、トレハロースSGとして医薬品の添加剤として使っていく取り組みを進めています。抗体薬品などは、がん治療に非常に重要な役割を果たしていますが、品質の安定性といった課題解決にトレハロースSGが貢献しています。

ここに書いてあるものに限らず、ナガセヴィータで製造する素材はバイオ由来の素材ですので、サステナブル意識の高まりが、非常に追い風になると考えています。

▶ ライフサイエンス分野における投資

旭化成ファーマ(株)の診断薬事業などを買収

～酵素製造と販売網の拡大、研究開発でのシナジー～



対象事業について

専門人材と先端設備
高シェアで強固な顧客基盤

所在地：静岡県

事業内容：診断薬および診断薬用酵素の開発、製造、販売
事業。診断薬用酵素原料および医薬品原薬製造

拠点：大仁医薬工場と統括センター

従業員数：205名



買収の目的

- ✓ 成長市場の診断薬分野での製品ラインナップ拡充
- ✓ NAGASEグループのネットワークと統合し販売拡大
- ✓ 高感度な酵素技術×NAGASEの研究開発力で新製品開発



規模

- ✓ 2030年度の売上総利益約40億円を目指す



スキーム

旭化成ファーマ(株)が対象事業を会社分割(新設分割)した新会社の
全株式取得

NAGASE: ライフサイエンス分野の売上総利益
(億円)

内、約40億円が本件



Delivering next.

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

37

ライフサイエンス分野の投資をご紹介します。

2025年7月に旭化成ファーマ社の診断薬と診断薬酵素事業をナガセダイアグノスティックスとしてグループに統合しました。

診断薬用酵素市場は、今後も継続的な成長が見込まれ、特に先進医療技術や個別化医療の発展とともにその需要の高まりが期待されています。

今後、NAGASEのネットワークを活用し、診断薬および診断薬酵素事業の海外への拡販を進めていきます。

また、取得する診断薬・診断薬酵素事業は、ナガセヴィータや研究開発機構の保有する酵素ライブラリと掛け合わせることで、革新的な製品の開発につながると期待しています。

▶ 研究開発(バイオ技術)の取り組み

抗酸化効果を持つエルゴチオネインの発酵法を用いた量産化を目指す

エルゴチオネイン

- ✓アミノ酸の一種でキノコ等に含まれる天然成分
- ✓強い抗酸化作用を有し、高い安全性が担保されている

期待される効果は？

- ✓認知への効果
- ✓肌しわ・シミの改善
- ✓快適な睡眠



バイオ由来の高吸水性ポリマーの開発に成功、事業化を目指す

生分解性SAP

- ✓でん粉を主成分としながら、高い吸塩水性能を実現
- 石油由来品と同等レベル、他社の生分解性SAPの6倍超

- ✓土壌や海水での分解が可能

SAP(高吸水性ポリマー)とは？

高い吸水性能を有する高分子材料で、紙おむつや、農業、緑化分野や化粧品など幅広い分野で使用されている石油由来品が主流で、環境負荷が大きいことが課題



※2023年10月31日「日本経済新聞」へ出稿

続いて将来の収益源になりうる育成領域について説明します。

NAGASEはバイオで新素材を生み出し、その要素技術や量産化までの機能・ノウハウを有している、国内では数少ない企業になります。

こちらでご紹介しているものは上市に向けて進めている素材です。

エルゴチオネインは、認知機能、睡眠改善、肌しわや老化防止などの効果が期待される希少アミノ酸の一種です。現在量産化に向けた準備を進めています。

生分解性SAPは、でんぷんを主成分とし、土壌や海水で分解される生分解性を有しながら、石油由来品と同等レベルの吸水性能を持っています。

右下の赤ちゃんの写真の横に「おむつ問題は水に流そう」とあります。通常のおむつは水を吸ったものを回収し、燃やしますが、水分を含んでいると、燃やすのに時間がかかり、CO2の排出量も増えてしまいます。土壌や海水で分解される特性を活かすことで、例えば、将来的にはトイレに流したり、回収して土に帰すことができるなど、非常に注目されている素材になります。

INDEX

1. 長瀬産業(NAGASE)について
2. 成長戦略
3. 株主還元など
4. まとめ

ここから株主還元についてお話しします。

▶ 株主還元方針

- 資本の増加を抑制し、ROE8.0%以上の達成を確実なものとするため、2024年度、2025年度の限定措置として総還元性向100%とすることを決定

(ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 × 100)

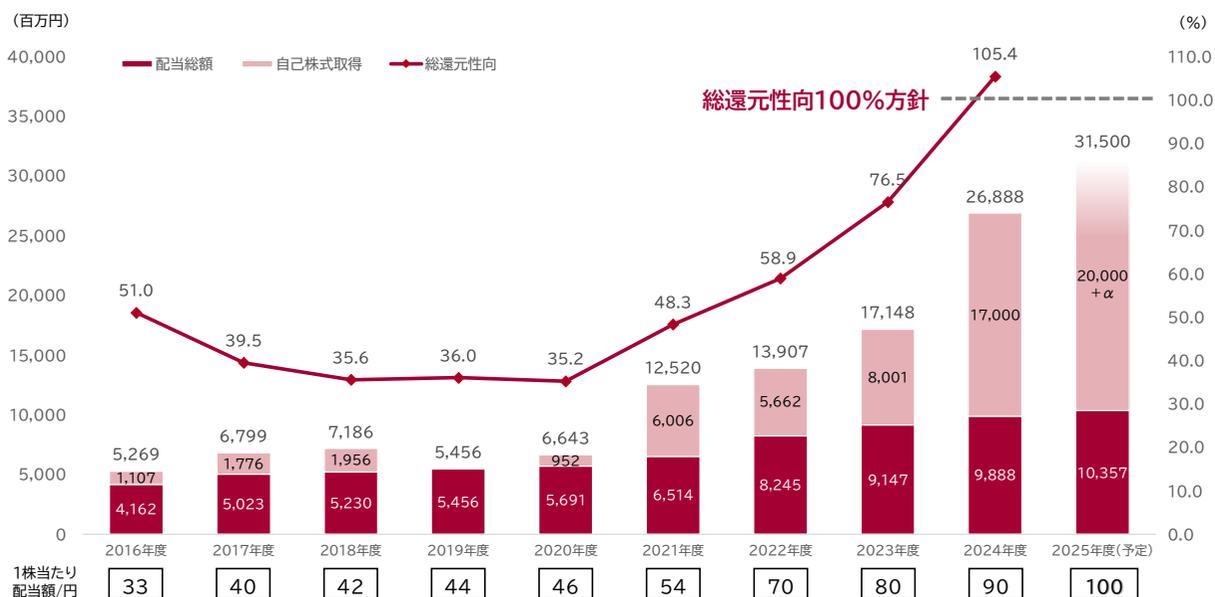
	従来方針	新方針(～2025年度)
総還元性向	—	100%
配当	原則継続増配	原則継続増配 ※変更なし
自己株式取得	政策保有株式の売却額を上限とし、機動的に実施	機動的に実施

これまで成長戦略についてお話してきましたが、2025年度までに、ROE8%以上を達成するためには、利益成長だけでなく、資本の増加の抑制が必要であると判断し、2024年5月の決算発表の際に、株主還元方針を大幅に変更しました。

具体的には、今年度2025年度までの限定となりますが、総還元性向100%を打ち出し、配当金については、原則継続増配としつつ、自己株式の取得を機動的に実施する方針といたしました。

▶ 株主還元方針

- ▶ 2025年度の1株当たり配当金は期末配当を当初予定の50円から5円増配し、中間45円、期末55円の年間100円を予定(16期連続増配見通し)
- ▶ 2024年度に引き続き、2025年度においても総還元性向100%の方針に変更なし
- ▶ 自己株式取得を200億円実施済
- ▶ 2026年2月に30億円の自己株式取得を決議(期間:2026年2月~2026年3月を予定)



※ 2025年度の期末配当金は、2026年6月開催予定の第111回定時株主総会に附議予定です。

株主還元の推移ですが、2025年度は16期連続で増配を見込んでいます。

2025年度の間配当は45円、
 期末配当は当初予定の50円から5円増配の55円とし、年間100円を予定しています。
 中期経営計画の最終年度となる2025年度に最高益の見通しとなりましたので、業績を株主の皆さまに還元する目的で、今回増配させていただきました。

自己株式の取得も積極的に進めており、総還元性向100%のもと、2024年度の総還元性向は105.4%となりました。

2025年度はすでに200億円の自己株式取得を実施しておりますが、
 2026年2月に、30億円の自己株式取得を決議し、実施しており、
 2025年度の総還元性向も100%を見込んでいます。

▶ 株式分割の実施

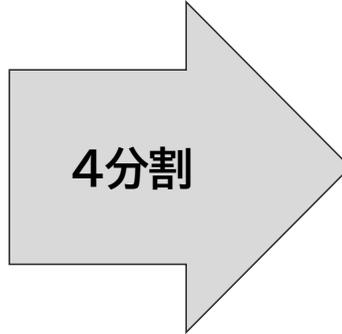
- 2026年3月31日を基準日として、2026年4月1日付で1株につき4株の割合で分割する
- 最低投資金額を引き下げ、投資家層の拡大を図る

～2026年3月31日

2026年4月1日～

発行済株式総数:1.1億株

1単元
100株
約40万円



発行済株式総数:4.4億株

1単元
100株
約10万円

配当・株主優待
について

2026年3月31日を基準日とする2025年度期末配当・株主優待は、分割前の株式数を基準に実施する

こちら株式分割について、ご連絡させていただきます。
より幅広い方に株式を購入していただくため、1株につき4株の割合で株式を分割することを決議しました。

分割は2026年4月1日に行われます。

これにより、最低投資金額は現在の40万円ほどから、10万円弱に引き下げられる見込みです。分割時に株価も4分の1になりますが、企業の価値、株式の価値自体は変わりませんので、ご安心いただければと思います。

今後の配当・株主優待に関する影響ですが、

2026年4月1日に分割を行いますので、

2026年3月31日を基準日とする2025年度の期末配当と株主優待については、分割前の株式数を基準に実施いたします。

2026年4月以降の還元策については、決定次第、公表させていただきます。

▶ 株主優待の実施

- NAGASE優待カタログを贈呈
- 保有株数・継続保有期間に応じて付与されるポイント内で好きな商品を選択可能



※株主優待の情報は2025年3月31日現在の株主に実施したものです。
2026年4月1日付の株式分割後の優待については決定次第、開示いたします。

		継続保有期間	
		半年以上3年未満	3年以上
保有株式数	100株以上 300株未満	1,500ポイント	3,000ポイント
	300株以上	5,000ポイント	10,000ポイント

基準日:毎年3月31日
カタログの発送は6月上旬
継続保有は同一株主番号での保有が条件

最後に株主優待を紹介します。

こちらは、昨年の株主優待の内容ですが、
3月31日を基準日として、オリジナルの優待カタログを贈呈しています。

株主の皆さまの保有株式数、継続保有期間に応じて、1,500ポイントから最大10,000ポイントを付与させていただき、ポイントの中で、好きな商品を選択できるものとなっています。

保有期間は、同一株主番号での保有が条件となっておりますので、売買の際はご注意ください
ばと思います。

▶ 株主優待の実施

- 商品は最大12点から選択可能
- 厳選したグルメやトレハロース使用の食品に加え、化粧品などのグループ製品を掲載

10,000ポイント



5,000ポイント



3,000ポイント



例えば、10,000ポイントであれば、
5,000ポイントから2点や、3,000ポイントを3点のような選択も可能です。

翌年へポイントを繰り越すことはできません。
写真はイメージです。

またイメージは2025年6月のカタログギフトの採用商品であり、変更となる場合があります。

こちらが2025年に実施した際の商品のイメージになります。
各ポイントごとに商品が設定されており、最大12点を掲載しています。

商品は、当社が厳選したご当地グルメや、ナガセヴィータが製造するトレハロースを使用したお菓子、
グループ会社を取り扱う化粧品などを掲載しています。

INDEX

1. 長瀬産業(NAGASE)について
2. 成長戦略
3. 株主還元など
4. まとめ

これまでのまとめです。

▶ まとめ

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社

事業内容

フード・半導体・ライフサイエンス・電子デバイス・モビリティ・化学工業市場におけるものづくりの課題を商社機能、製造機能、研究開発機能を活かして解決

成長性

フード・半導体・ライフサイエンス分野の製造機能、バイオ分野の研究開発機能にリソースを集中注力・育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円

安定性

自己資本比率49%(2025年3月末時点)
特定の市場・地域に依存せず、バランス良く収益を稼ぐ

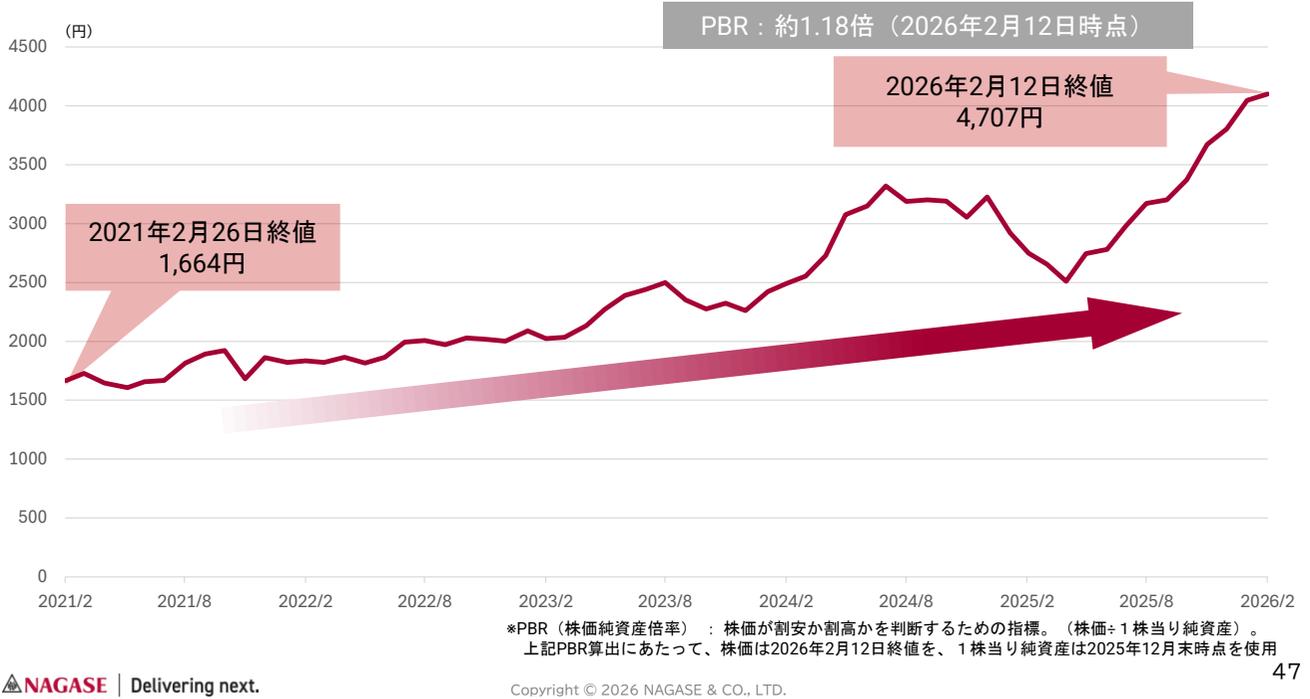
株主還元

2024年度、2025年度の2年限定で総還元性向100%を掲げる
2025年度の1株当たり配当金は中間45円、
期末55円の年間100円を予定(16期連続増配見通し)

NAGASEについて、事業内容、成長性、安定性、株主還元の4つの項目でまとめています。是非、ご一読頂ければと思います。

▶ 株価の推移

成長戦略と資本戦略の両輪で企業価値の向上を図る



本日ご説明した成長戦略、資本戦略の両輪で今後も企業価値の向上を図っていきます。

NAGASEは、2032年に200周年を迎えます。常に時代に合わせて変革し、成長し続けてきました。今後もいろいろな取り組みを通して成長し続けることを感じていただけたら幸いです。

本日は、ご視聴いただきありがとうございました。

引き続き、長瀬産業およびNAGASEグループをよろしくお願いたします。



■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2026年2月17日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。